

学校 教育 目標	○自分で考え進んで学び続ける子【知】					
	○まちやみんなとの関わりを大切に子【徳 公】					
	○夢や未来の創造にたくましくチャレンジする子【体 開】					
学校 概要	創立 71 周年	学校長 大河内 裕子	副校長 税田 栄一	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 2
	児童生徒数: 552 人	主な関係校: 奈良中学校 恩田小学校 桂小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	奈良中学校 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	奈良中学校 恩田小学校 桂小学校	ひと・もの・こととの関わりを通して、 豊かなコミュニケーションができる子ども 様々な視点で「観」の共有を図り、義務教育9年間で子どもを育む。 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・生徒会、小中合同の学校保健委員会、部活動交流の推進 ・子ども像を共有しながら、児童生徒指導や特別支援教育の情報交換や授業参観 等の交流の推進

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりの「学び」の高まりと自尊感情の醸成を大切にします。 ・「人 もの こと」との関わりを大切に、主体的に問題を発見し友達と協働して解決する力を育てます。 ・一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育みます。 ・健康的な生活習慣を形成し、ねばり強く最後までやりぬく心と体を育てます。 ・地域や社会とつながる体験や本物との出会いを通して、自己の成長を見つめる子を育てます。 ○子どもを真ん中にした「チーム奈良」の連携・協働を推進します。 ・家庭、地域、各関係機関等との連携を図り、「チーム奈良」で一人ひとりの子どもの成長を支えます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①子ども達に育成したい資質・能力を明確にした授業を実現するために、授業研究の方法や内容を工夫し、子どもの具体的な姿で語れる研究会の充実を図る。②日常からの授業の見合いやブロック学年研等を活用して授業を見合える機会を設定し、全教職員で授業改善に努める。③各研究会や学習研究部からの発信を行い、各自の授業力向上への意識を高める。
徳 思いやりの心	①道徳授業について学年研で話し合い授業改善を図る。②てくら遠足や月1回程度のたてわりあそびを行い、異学年交流を行う。③たてわり活動以外でも他学年とのかかわりができるようにカリキュラム上に位置づけ、具体的な計画を立て、実施していく。④あいさつが増えていくように、保護者や地域の方と協力した取組を行うなど、他者との関わりを大切に活動を増やしていく。
体 健やかな心と体	①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させるため、児童会活動を活用し、様々な遊びの紹介や身体を動かす機会を設ける。休み時間の外遊びを増やし運動の良さを伝えていく。②学校保健委員会で基本的生活習慣をテーマに取り上げ、児童保健委員による話し合いや調査、意識喚起をする。③養護教諭が学級・全校への保健指導を意図的、計画的に行い、基本的生活習慣の意識向上を図る。④栄養士によるバランスイーターワークの活用や給食委員会の活動を通して、栄養バランスの良い食事を中心とした食育活動に取り組む。
公開 自分づくり	①子どもの実態に合わせて、6年間を見通した学級活動のカリキュラムを見直し、作成する。キャリア教育の一環として、継続的に出前授業等を活用した本物体験の充実を図り、次年度にも引き継いでいけるようにする。②前期・各行事・年度末に振り返りを行い、自分づくりパスポートに蓄積していくことで、自分の成長を実感できるようにする。③自己の目標や振り返りを友達と共有することを通して自己肯定感や他者意識を高める。そのために学年を中心とした適時の振り返りの設定や学年掲示板の活用を図る。
いじめへの対応	①月1回「にこならアンケート」や教育相談を実施し、情報共有や対応の検討を定期的に行うことにより、いじめの未然防止・早期発見につなげる。②年2回YPアセスメントを実施し、学年で個々の子どもや学級への支援を検討する。YP分析研修を活かし、より実効性のある横浜プログラムの実施につなげる。③月1回はいじめ防止対策委員会では、アンケート結果などに基づき、適切な組織的対応の点検や確認につなげる。④いじめ防止研修を行うことで、教職員の意識を高め、組織としての対応力を高める。⑤児童代表委員会やよこはま子ども会議など児童主体の活動を設定し、子どものいじめに対する意識を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①各主任を中心に学校目標、中期学校経営方針に基づいたPDCAを細かなサイクルで回し、学習効果の視点から取組改善と業務改善を図る。②学年研、指導部、推進部、メンターチームなどチームで授業デザイン、児童理解、特別支援等に関わる内容を共有・検討するなど協働的に取り組むことを通し同僚性を高め、チーム内での人材育成が図られるようにする。③日課表の工夫により、教職員の裁量ある時間を確保とその活用の仕方を検討する。④電子申請やミライムなどICT活用により業務を効率化する。⑤各種会議の進め方の工夫、教職員一人ひとりのタイムマネジメント力を向上させ多忙感の解消を図る。
地域学校協働活動	①人材リストの作成や活用を継続的に活用していくことで、地域や外部人材の教育力を生かしていく。②地域コーディネーターとの連携をより図るため、依頼書のデータ化や活用内容の整理等ハード面を強化し、子どもの学習に活かす。③年間カリキュラムの内容を見直し、人材の活用や材を開発して学びの充実が図られるようにする。
特別支援教育	①個に応じた支援が必要な児童について、個別支援学級や特別支援教室等を充実させ、適切な支援や指導を実施する。また、どの子にとってもよりよい学びの環境を考え整えていく。②職員研修を通して、様々な特性に対する理解や支援・指導のあり方を学ぶ。③外部機関と連携を図り個に応じた支援や指導につなげる。
人権児童指導	①人権週間では、発達段階に適した内容を吟味し、系統性をもった取組につなげる。②児童指導では、自己指導力を育むことを共通理解し、重点取組目標(あいさつ)などを設けた取組を通して、児童の自己決定や自律性を支援し、自己肯定感を高める。③SC,SSW、児相、区役所、警察等の関係機関と連携を図り組織的な対応を行う。④児童の多様なニーズに応じた適切な支援や指導につなげるために、YP個人プロフィール分析研修等を行い、教職員のスキルアップにつなげる。
担当	児童指導部